

2015年度

事業報告

自 2015年 4月 1日

至 2016年 3月31日

公益財団法人 正力厚生会

〔がん患者支援事業〕

＜患者団体への助成＞（継続）

全国のがん患者会や支援団体などの中から、資金不足からイベントやプロジェクト、研究などができない団体を一般公募し、専門委員会での審査を通過した団体に活動資金を助成する事業です。全国の19団体に助成しました。

助成金は、「がんと介護」をテーマにした講演会運営や、インターネットでの情報発信、闘病体験者の手記をまとめた記念誌の発行などに充当されました。

＜医療機関への助成＞（継続、新3か年計画の1年目）

「地域における緩和ケアと療養支援情報プロジェクト」（国立がん研究センター、がん研究会、東京大学死生学・応用倫理センター、帝京大学）は、完成させた「ご家族のためのがん患者さんとご家族をつなぐ在宅療養ガイド」2,000部を全国のがん診療連携拠点病院や都道府県に配布したほか、「ガイド」の全内容をインターネットで、だれもが無料でダウンロードできる環境を整えました。

これと並行するかたちで、一般を対象にした「がん医療フォーラム仙台2015」（2015年11月8日、参加者約250人）、医師や看護師、介護士、薬剤師など在宅療養にかかわる専門職を対象にした「がん医療研修会 in 沖縄2016」（2016年2月14日、参加者約80人）をそれぞれ開催しました。

各会場では、完成した「ガイド」が披露され、それを教科書にしながら、地域や医療現場でどう「ガイド」を活用していくかについて、活発な意見交換が行われました。

参加者を対象にしたアンケート調査の結果、「『死＝悪』というイメージが変わった。死を前提にした全人的なケアが重要であるという新たな視点を学んだ」「多職種が集る研修会を継続的に開催してもらいたい」などの前向きな意見や感想が多くを占めました。

「ガイド」については、完成後、購入をしてまでも手元に置きたいとの要望が数多く寄せられたことから、2016年度に一般市場を流通する書籍化を実施しました（4月刊行）。

なお、「がん医療フォーラム仙台2015」の様子は2015年11月19日付読売新聞夕刊医療面に、沖縄県南風原町で開催された「がん医療研修会 in 沖縄2016」の様子は2016年2月16日読売新聞朝刊（西部本社発行版）に掲載され、広く周知されました。

<読響ハートフルコンサート>（継続）

がん患者や家族たちの心を癒すため、読売日本交響楽団員を全国各地のがん診療連携拠点病院に派遣して、弦楽四重奏などを披露しました。2015年度は、全国8会場＝長野市民病院（2015年7月2日）、仙台医療センター（同年7月31日）、紀南病院（同年9月5日）、米子医療センター（同年9月25日）、金沢医科大学病院（同年10月23日）、東京慈恵会医科大学付属柏病院（同年10月30日）、JA山口厚生連周東総合病院（同年11月5日）、済生会熊本病院（2016年1月27日）＝で開催しました。

各会場では、患者とその家族や医師、看護師などの医療従事者約100人が集まりました。会場からは、「病院で弦楽器のコンサートが聴けて感激した。知っている曲も多く、元気をもらった」（64歳女性）「手術がつかったので、とても癒されました」（70歳女性）などの声が寄せられました。

なお、各会場でのコンサートの様子は、読売新聞の各地域版に掲載されました。

2015年度会場は、初めて一般公募をしました。全国34医療機関から応募があり、地域性などを考慮しながら専門委員会を選定しました。

以上